

鹿児島地方労働組合

情報 一二八号

2011年6月30日

東日本地震・自治労復興支援「第5グループ」の活動に参加して！

南日本総合サービス分会

副分会長 肥後 良二

街並みに灰色の自衛隊のジープトラックが違和感無く溶け込んでいました。うねるように陥没した道路、折れた電柱、道路脇に寄せられたグシヤグシヤになった車、その脇を車が巻き起こす粉塵の中に道行く人々はマスクをして雨も降っていないのに長靴を履いて瓦礫を避けながら歩いていました。ここは中東の戦時下にある国ではないのです。紛れもなく日本なのです。

5月7日(土)～5月15日(日)まで宮城県に於ける自治労復興支援ボランティアに参加しました。以下記します。支援場所

宮城県石巻市渡波(ワタノハ) 公民館・渡波支所 支援内容 公民館内の避難所運営業務支援(公民館内の避難住民26人、被災直後は300人!! 程だったとの事)、渡波地区

避難本部業務支援、支所の各種行政申請受付業務の案内、取次ぎ等支援工程2班編成による午前8～9時より翌朝8～9時の24時間交替制

5月7日、午前9時に鹿児島空港から羽田空港へ移動、羽田空港ロビーに集まった全国各県の仲間が正午過ぎに大型バス10台余に分乗して東北を目指し高速道路を北進する。2時間程走った頃からバスが大きく揺れたり振動が激しい区間が多くなってきた。道路を見るとアスファルトの色が違うようだ。震災の影響で陥没したり亀裂が入った場所を応急的に補修している所が多くなってきたのである。道中、沖縄県警察・福岡県警察の車両が隊列を組んで走っていた。18時前に松島(日本三大景勝地)のホテルに到着した。到着後すぐに班編成(24時間交替・2班編成)がされて支援場所が決定、慌しく部屋に入り(4人部屋に

7人!)1時間程で入浴・食事を終えて明日からの支援先に入っていた前任者との引継ぎ会議が始まり22時30分頃終わった。明日は午前6時30分にホテルを出発して石巻市内へ向かう。

ベースキャンブ(以下BC)となる松島のホテルを朝6時30分に大型バスに乗り込み出発、40分から70分程で石巻市の中継地となるイオン駐車場に到着、タクシーに分乗して各支援先へ向かいます。現地班との引継ぎを経て活動開始。明け班はタクシー・中継地・BCに帰り非番という日程でした。支援の中心は支所の各種行政申請受付業務の案内、取次ぎでした。

被災から2か月が経過して罹災・被災証明の申請手続き、生活支援金・義捐金の給付手続きに訪れる人が多かったのですが渡波支所も津波による被災で一部の申請受付し

かできない状況にあったので処理できない申請・手続きは本庁へとの説明をするというような対応が続きました。その他に消毒の為に消石灰を貫いに来られる方もいます。地域は漁港に接した場所でもあるので水産加工品を扱う工場も壊滅的な被害にあつて海産物が流れ出し住居の周辺や中まで腐敗臭がしているとの事でした。確かに支所の周辺は風向きによつて腐敗臭とヘドロ臭が混ざつたような空気でした。夕方になり支所業務を終わつてからは公民館に避難されている方々への支援業務になります。とは言つても食事の配給とお湯を沸かしてポットに入れて渡す程度の業務になっていました。翌朝の引継ぎまでは休み(仮眠)ますが余震が続く中でもしも大きな揺れがあれば地域住民が避難所へ来られるので対応要員としての待機となります。26名の避難住民は★

(★2面へ続く)

今後の予定!

- 第13回地方代表者会議
期日 7月15日
13時30分
場所:プラザエフ
- 自治労全国一般第7回総会
場所 長野県
日時 8月22日～
8月23日

第11回自治労全国一般評議会才
ルグ養成研修会に参加して

南日本総合サービス分会 執行委員
井手口 政弘

執行委員として、約3年経過しましたが組合活動に興味はあるものの、その内容をよく理解は出来ませんでした。それで今回、初めてオルグ養成研修会に参加させて頂くことになり、不安な気持ちでの参加となりました。

台風の影響もあり、3日目の予定を1日繰上げとなりましたが、その中でも内身の濃い講座で全国一般の歴史から、平和の問題、労働法の基礎など各講師の方々のとても分かり易い話で知識のない私でもとても興味深い講座内容でした。

また、全国の分会の方々が關っている現状の発表などもあり、労働組合のあり方と意義についても改めて感じる事ができました。我々、分会の組合員の方々から組合に対する不信感の声などありますが、組合がある現状を当たり前にとらえている方が大勢いらつしやると思います。

私もその一人だった気がしますが、これからそれぞれ組合員の方々に労働組合の意義などを一人でも多くの方に理解していただく事ができればと思います。



★4部屋に分かれて生活を送っています。2部屋は会議室に簡易畳が敷かれた部屋、2部屋は和室でした。ラジオこそありましたがテレビは無く情報源は地元の新聞とラジオだけ、そして避難所を訪れる人々の噂話？でした。日が沈むと支所の周辺はとて静かになります。道路を歩き交う車もほとんど無く周辺の家々も数えるほどの灯りしか見えない状態です。

震災から2ヶ月経過してはいますがまだ一部の電気と水道しか復旧していない状況でガス・下水道の整備がなされていませんでした。避難所生活をして決定的に違うのは仕事が終わりに帰るとお風呂に入るのは入るはずですがココでは入れないのです。そして日が落ちてからトイレに入る為には懐中電灯を持って建物の外の仮設トイレに行かなければならないのです。毎日を不自由無く快適な生活を送っていると不便さがわからない部分です。今回の支援活動は9日だけでしたが一番ストレスに感じられる部分に思えました。被災された方々はいつになったら普通の生活に戻れるのか先の見えない生活を今も送っています。

地震の影響はそれだけでなく地盤が89センチも沈下した地区でもあるために満潮の時間になると床下・床上浸水になってしまうので支所の敷地内には土嚢を作るための砂が毎日のように運ばれて来ました。土嚢を取りにこられた方の手伝いをしようとした時に地域自治会の方から「自分でやれることは自分でやらしてやる。皆が同じように頑張っているんだが特別扱いはいしねえようにしてんだあ」と温かみのある東北弁で説明されました。もちろん年老いた方など手伝いの必要な方には手を貸します。「あんれえー、わざわざ鹿児島がら来てくれたったっかあ。わんざわざすまねえす。遠くからこんなところまでまあおめえさんたつても大変だっぺなあ。体壊さねえように頑張るってける。」なんてこちらが励まされてしまう気遣いは県民性によるものなのでしょう。そんな言葉をかけて下さった何人の方が「オラん娘っこが津波にやられちまった」 「まだお父ちゃんが見つかんねっちゃ」なんて話して下さるとこちらは言葉に詰まって涙が出てしまいました。

「それは大変でしたね」と簡単に声をかけることはできず自分の無力さを感じる瞬間でもありました。支所を拠点に民間のボランティア団体が活動をしていました。毎朝9時頃に20〜30人の若い方々（ほとんどが20代前半）が集まり5人程度のグループで依頼のあった場所へ向かっていきます。夕方になるとみんな泥まみれになって帰ってきました。一日中泥出しや瓦礫の運び出しをして疲労困憊しているはずですが出発した時よりも元気のあふ顔をしています。「疲れたでしょう？」と聞くと「疲れたけど達成感が凄くあって嬉しくなってます。来ました！」と。久しぶりに若い人たちの気持ちの良い笑顔を見たような気がします。

今回の震災支援活動に参加して想定外という言葉の意味、危機管理の重要性、そして何よりも人との繋がり、原点は家族にあることを学べました。上手く表現できませんが自身に大きな収穫があったことは確かです。まだまだ被災地は人手が必要で、そしてお金も必要です。自分が出れることを考えて実行しましょう！

最後になりましたがボランティア休暇を休ませてもらった会社と休暇に対して理解頂いたお客様、そして休暇中の現場を守ってくれた職場の仲間々に感謝をいたします。

出発前の鹿児島空港で石巻市へ出発する第5グループの（左から）美坂達也さん（西之表・県本部）、肥後良二さん（全国一般鹿児島）、見送りに来た榮留道夫委員長、片野田清司班長、園田浩一郎さん（指宿）



県本部情報44号より抜粋

2011春闘の状況

春闘については6月24日現在で13の単組分会で要求書を提出し、4つの単組分会で未提出となっている。要求した単組分会のなかで妥結もしくは回答の出ているのは7つとなり。平均金額は3736円となり昨年より519円のプラスとなっている。

また、現在交渉中のある分会では、会社として数年ぶりに利益が計上できたとの報告があった。分会としては、利益が計上できたのであれば2,001年から現在まで賃上げ凍結・一時金削減など組合員は苦渋の判断を行いこの間耐え忍んできたので、今回の利益は賃金引上げで還元を行うべきと会社に求めた。会社としては、賃金引上げでの還元ではなく一時金での還元を全職員に行いたいとの回答であった。会社としては、今後継続して利益計上が出来てくれば可能であるが現時点では今後の見通しが不透明であり賃金引上げ数年後に利益の減少による賃金削減は行いたくないとの考えから、一時金で還元を行いたいと再度回答があった。

分会としても会社の考え方には一定の理解は出来るが、今後も継続して利益計上出来る経営体質への努力を求めた。

執行部としては6月中の解決を目指して春闘に全力で取り組んできたが、6月中の妥結ができない場合も考えられる。しかし最終的に全部の単組分会の妥結まで引き続き交渉を重ねていくこととなる。